

2018年6月6日

第13回パドボグランプリ 2018

レース出場選手各位

SUPA レース委員会 御中

パドボグランプリ実行委員会

競技委員長 関野聡

公式通告

全日本選手権予選公認レースにおけるプロテストについて

2018年5月27日に鎌倉市材木座海岸で行われた SUPA 公認「第13回パドボグランプリ 2018」コースレースにおいて、一部の選手が指定されたコース制限に従わず、第2マークを正しく回航していない旨のプロテスト（抗議）がありました。パドボグランプリ実行委員会では厳正に協議し以下のとおり決定しました。

- 1) 当該プロテストの内容はレースの順位決定において重大であり、SUPA 全日本選手権大会予選である本大会では厳正に対処するべきである。今後の大会においてプロテストが発生した場合には、大会会長が速やかにプロテスト委員会を組織するものとする。
- 2) 本大会においては、当時水上バイクの機械的トラブルからマーク審判員を配置出来なかったことから、回航する方向を指示していないとともに、実際にマークを回航していない選手を特定することは不可能である。
- 3) 制限違反を記録されなかったことにより、本レースにおける一切の処分を保留するものとする。従って公示されたりザルトを変更しない。
当リザルトでは、SUPA 公認大会レギュレーションに従い全日本選手権大会参加権利を明示するが、本戦への出場資格及び SUPA・2018 年度ランキングへの影響については、その判断を SUPA レース委員会の判断にゆだねるものとする。
- 4) 当該レースにおいてマーク審判員を配置できなかったことは、レース運営者がその責に問われるものであり、出場された選手一同に対し深く陳謝する。実行委員会では猛省を処し、今後は確実にマーク審判員を配置するとともに公認レースの運営をさらに厳格に行う。

以上

参考

パドボグランプリ・レースルール（2017 改定）より抜粋

9：マーク回航

- 1) レースにおけるマークにはマーク審判員を多く。
- 2) マーク審判は選手が確実にマークを回航し、正しいコースに進むことを補助する。
- 3) 選手は各マークを決められた方向から、確実に回航しなければならない。
- 4) マークを回航していない場合は、その場でマーク審判よりコールされる。
- 5) コールされた選手は失格となり、記録はDNFとなる。
- 6) ただし、コールされた選手が開講しなかったマークまで戻り回航すれば、レースに復帰することが出来る。

14:抗議

- 1) 選手は他の選手のルール違反についての抗議を 最後の選手がフィニッシュしてから 5 分以内に出すことが出来る。
- 2) 選手から抗議が出された場合、競技委員長が関係する選手から状況を聞き判断する。
- 3) 抗議の内容が認められた場合は、公平になるように記録訂正を行うことがある。

SUPA 公式 SUP レース・ルールより抜粋

- 1、全ての選手はスポーツマンシップに則り、SUP レーサーとしてこのスポーツの模範となる姿勢で競技に臨まなければならない。

SUPA 全日本選手権出場資格

- a) 公認レースにおいて完漕した選手（備考1）に全日本選手権オープンクラスの出場資格が与えられる。
- b) 公認レースの総合順位（男女別）の 50%以内の順位を収めた選手に全日本選手権エリートクラスへの出場資格が与えられる。

備考1：タイムリミット内の完漕を完漕として扱う

5km のレースでは当該クラスストップフィニッシュ後 20 分以降 1km 距離が増えるごとに 10 分加算。